

DIRECTFORCE の情報紙

DF NOW

2011年9月発行 NO.16

詳しくはDFホームページ <http://www.directforce.org> をご覧ください



曾山高光氏 (写真同好会) の作品「秋から冬へ」

一般社団法人ディレクトフォース 〒100-6919 東京都千代田区丸の内2-6-1 丸の内パークビルディング19F 電話03-5288-7560 発行人・松村 洋 印刷・楳ヶープリント

第20回 ディレクトフォース 会員総会

岐路に立つディレクトフォース

「代表理事の交替」問題

一般社団法人ディレクトフォースの第20回会員総会が、9月14日学士会館において会員約230人が参加して開催された。松村代表から「第9期のレビューと課題」が報告されたが、その中で特に課題として強調されたのが、代表理事の交代問題。10月末の代表理事交替に関して基金出資者である(株)パソナからDFおよび(株)DFマネジメンツの代表をパソナ側から出すとの意向が示され、これまで続いてきた会員による自主・独立運営のあり方が損なわれる方向に動きつつある。反対である旨を明確に回答しているが、パソナとの折衝を更に続けるため代表理事辞任を一時保留して今しばらく留まる。交渉結果は改めて全役員に報告し、会員に最終判断を仰ぎたいとの説明があり、出席会員全員がこれに賛同した。

I DFの最近の姿 ～松村代表理事

1. 会員の活動

■ 実働会員数 (図1)

今期の実働会員数は579名となった。実働会員数が前期より減少したのは初めてのこと。原因として考えられるのは、入会希望者に対してDFの現状では再就職の機会がそれほど多くないこと、入会目的が収入を得ることであれば間尺に合わないという説明をしており、事前のスクリーニングが効いていると思われる。

■ 分野別活動状況 (図2)

DFMの4つの事業部に登録し、活動に参加した会員数の合計は313名、月例勉強会出席などDF活動に参加している会員数は994名。月例勉強会の平均出席者は125名であるが、1回でも出席した会員は420名で実働会員数の72%に当たり、思ったより良い成績である。

2. 財務状況

■ 収支推移 (DF+DFM) (図3)

収入は1億2800万円(前年比100万円の増加)、会員への支払い

図1 実働会員数

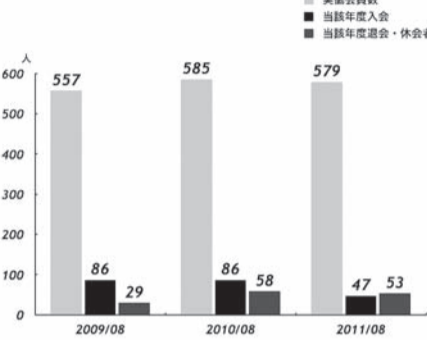


図2 分野別活動状況

分野	対象	人数
DFM	コンサル事業	協力会員 99人
	アカデミー事業	派遣講師 104人
	ベンチャー事業	支援会員 延94人
	サーチ事業	再就職 16人
合計		313人
DF	月例勉強会 (含 総会)	平均出席人数 125人
	部会 (4)	登録会員数 延379人
	同好会 (21)	登録会員数 延490人
	合計	994人



「代表理事問題」で決意を述べた松村代表

■ 収支内訳一経常一 (DF+DFM) (図4)

収入は4事業部で1億900万円、全体の85%の収入を得ている。ただ、各事業部の収入をみると事業部別収入の

図3 収支推移 (DF+DFM)

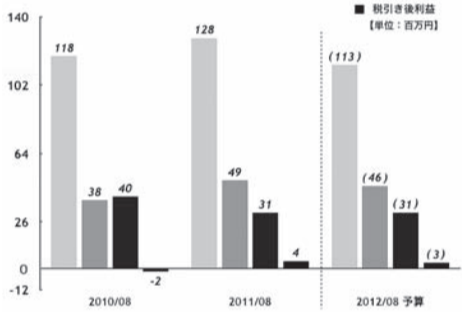
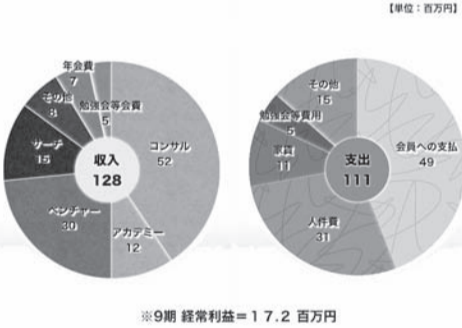


図4 収支内訳一経常一 (DF+DFM)



様相がこの1年間で大きく変化している。会員の努力により、片方の活動分野の収入が減少しても、他方で増加させるといった世の中の流れを上手くつかむ活動をできている。

3. Reviewと課題

■ 9期のReview

① 活動の場を広げる
懸案であった名古屋支部が発足した。今後東京と連絡を取りながら、名古屋中心に独自の活動をしてもらうことになる。これ以外に、秋田から熊本まで全国15の地とコンタクトが取れるようになっており、検討のうえ対応していく予定である。

② 事務局員のローテーション

内規の3年以内になかなか収まらず懸案になっていたが、この1年で事務局員交替を進め、完了している。70歳定年制はやめ、事務局員になる年齢を66歳以下、期間3年と定めることにより若返りを進めていくこと

■ 課題

① 地方発案の掘り起こし
地方の中小企業にとって、中央の

大企業への紹介と企業経営へのアドバイスをワンストップでやってくれるDFのような組織が地方には無いことから、DFの機能に期待するところが非常に大きい。事務局員の補強も考えながら、地方への対応を強めていきたい。

② ボランティア活動支援

遠隔地での理科実験や環境保全活動に交通費の半額を支援することにしてきたが、これはDFの重要な社会貢献活動であるので、今後は収入の一定割合をボランティア活動支援に当てることを提案したい。

③ DF代表の交替

10月末に代表交替を考えていたが、株式会社パソナからDF並びにDFマネジメンツの次期代表はパソナから出したいとの申し入れがあった。パソナから基礎財産の提供を受けているが、これまで運営は会員が自主的に進めていた。そこで一存ではあるが、この申し入れに反対する回答をしている。

問題点として次の3点申し上げたい。

(i) パソナとの関係は緊密化し、拡大している。パソナから感謝されるとともにDFもパソナとの関係が重要なウエイトを占めている。またDF、DFマネジメンツの役員はパソナがマジョリティであり、意見を述べる場は十分にあると考えられる。更に自主運営といっても聞く耳持たずということではない。こうしたことから今回の申し入れには意味が無いのではないかと、DFの活動というのは、会員が自らの自由な意向、選択にもとづき交通費、参加費を払って自主的に参加し多面的活動を行っているもの。代表として会を取りまとめるためには、会員と日常活動でコンタクトを取り、意思疎通を通じて互いの信頼関係を築

いていくことが必須条件である。代表が権限によって号令一下動かすというものではない。(iii) 会員がどのように受け止めるかがすべてである。これまでDFをパソナの利益のために使うことは考えていないということであったが、今回パソナの業務拡大を視野に入れたとも思える代表送り込みは、会員には方針の180度転回ではないかと映る。その結果として、今後会員の活動意欲に大きな影響が出ないか懸念される。

しかしながらパソナ側の意向は強く、現段階では今後の運営について報告出来る決着を見ていない。この状態

II 事業部報告

1. アカデミー事業部 石原事業部長

■ 第9期講義実績
アカデミー事業の3本柱である大学講義、企業研修での講演、ロータリーライオンズクラブでの卓話の合計実績は429コマ(前年353コマ)前年比22%増となっている。特に大学の講義回数が増加しているのが特徴。DF講師数としては104名(前年87名)の方にご出馬いただいた。このうち新しい講師が24名(前年16名)おられる。

■ トピックス

① 新規の大学講座の大きな特徴は、学生の将来の就職活動に備えてキャリアアップの一助になる講座の依頼を受けていることである。(二松學舎大学、高崎経済大学、東京経済大学)
② 初めてのケースとして、社会人向けのゼミ形式の講座も行っている。(千葉商科大学)
③ 外国語教育のための講座として、神奈川県で英語に加えて中国語講座の受注を受けている。

2. コンサル事業部 森山事業部長

■ 現状
第9期の月額報酬は330万円、成功報酬が170万円で合計500万円の売上を達成することが出来た。しかし第10期は100万円減の400万円を見込んでいる。その理由は、投資環境が大変厳しくなっているためファンド会社から月額報酬の圧縮あるいは打ち切りといった動きが懸念される。成

で代表を交替するのは無責任だと考えられ、後任の方にお願ひするのが難しい状況にあるので、10月末の辞任申し出は当面保留し代表として交渉を続けることをご了承いただきたい。10年間パソナから協力支援をいただき、会員の努力もあって今日のDFがあり、社会的評価もいただけるようになってきた。出来ればそのまま存続させたいというのは両者共通の希望ではあるが、今後のこともあり曖昧な形での決着はすべきではないと考えている。

今後どのような交渉結果になっても詳細を報告し、会員皆さんの判断を仰ぐことにしたい。

■ 事業内容

コンサルの事業内容は、再就職支援会社支援、投資ファンド会社支援、不動産投資ファンド会社支援、福利厚生請負会社支援だが、先細り状況になってきているので、会員皆さんには、業種を問わず新たなコンサル契約先を紹介いただきたい。

3. サーチ事業部 瀧田事業部長

■ 再就職の状況
第9期の求人企業数は31社、採用決定は16社16名であった。16名の年収創出額は約800万円。決定率が52%程度なので率としては悪くない状況かと思われる。勤務形態は非常勤13名、常勤3名で、その内訳は社外監査役4名、顧問11名、部長1名となっている。

■ 最近の求人状況の特徴

昨今の経営環境を反映して非常勤営業顧問職が増えている。続いて上場企業の監査役案件が復活してきている。更に地方案件が出てきていること、独立役員の内定年内規によるリビート求人が増加していることが挙げられる。リビート求人が増えてくればサーチ事業部門も安定してくる。もう一つの特徴として求人年齢の低下傾向があり、一方DFの平均年齢は67歳なのでこのマッチングに苦労している。最近の求人案件では、昨今の経営環境を反映して食品関係、流通関係の案

件が多いという印象を持っている。就職を希望される方はDFwebに個人データを登録していただければ活動に活用させていただきます。

4. ベンチャー支援事業部

集谷事業部長

■実績と予算
第9期の実績は前期に比べ9割増の300万円になった。第10期は3割増の390万円を目標としている。

■実績の内訳

第8期の期末の支援企業数は12社であったが、第9期に支援企業数が12社増え、1社が契約終了となり9期末の支援企業数は合計23社となっている。

III 部会報告

1. 監査役部会 山本世話役代表

■活動状況
発足して6年になる。運営体制はこの6年間坪井監査役部会長にお世話いただき、第6クール世話役としては6名がお手伝いした。第7クールの監査役部会長は瀧田氏が、世話役は第6クールの同じメンバーが当ることになっている。部会登録メンバーは160名、第7クールは170名となっている。

■小研究会活動
研究会のほか有志による小研究会活動を行っており、第6クールでは2

勉強会レポート

■3月勉強会
「気候変動はなぜ論争の対象となるのか?」



大村 勲氏
スイス連邦工科大学 (ETH) 名誉教授



藤田 久一氏
関西大学名誉教授

■4月勉強会
「国際法から見た尖閣諸島問題」

■5月勉強会
「大震災における市民活動及び企業の役割」



笹川 陽平氏
公益財団法人 日本財団会長



福元 守氏
アキュファイブス研究所アジア地区担当副社長 創造的生物工学研究所常任顧問

■6月勉強会
「遺伝子と老化と病気―遺伝子との関係でガンは治せるか?」

■7月勉強会
「進化する成田空港―国難を乗り越え、アジア時代の幕開けに向けて」



森中 小三郎氏
成田国際空港株式会社 代表取締役



堀内 修氏
音楽評論家

■8月勉強会
「オペラ学・オペラ楽―西欧の近代を成立させた芸術と娯楽の王の考え方と楽しみ方」

グループにより「中小社監査役監査のミニマムプラクティスを探求する」と「法制審議会会社法法制部会での審議状況を踏まえて、企業統治制度の在り方に関する考察と提言」という2つのテーマが研究された。研究成果はホームページに掲載し、世間一般の方にもご覧いただけるようにした。現在1000件を超えるアクセスがある。

2. 技術部会 森山世話人

■活動状況
活動内容はまず例会がある。偶数月に開催する例会では、分科会の活動報告と外部講師も含む講話により相互啓発を行っている。分科会は活発で、4つのテーマで併行して行っている。討議会は昨年6月から「日本産業は何を目指せば生き残れるか」をテーマに、有識者を招いて多岐にわたる分野、視点から議論を重ねており、年内にはまとまった報告が出来る見込みになっている。こうした技術部会の活動は、技術部会互版としてホームページに掲載されている。

■理科実験グループ

この1年間で大変活動が広がった分科会である。当初3つのテーマで始まったが、この1年間で4つのテーマが新たに開発された。実績も11年度は32箇所の会場で、約2000名

に実験を楽しんでもらうところまで盛り上がり続けた。12年度は60箇所、3000名に実験を楽しんでもらう計画。文系の方も含め積極的に理科実験グループに参加願いたい。

3. ベンチャー支援部会 四方世話人

■ベンチャー支援世話人会
現在世話人会は6名で構成している。支援を希望するベンチャー企業からプレゼンを受け審査し、支援を検討することになっている。同時にベンチャー交流会にもプレゼンをしてもらい、会員による支援を決定する。

■支援企業

現在支援対象は33社ある。支援企業数が増えたのは次のような理由がある。TMMCから健康保険電子請求ソフト販売のため健康保険組合の紹介支援を頼まれたが、請求元を対象とするよう支援の中心を変えたことが奏効し、支援結果が広がった。更に協力企業からの紹介案件が8社ある。これは官庁関連および民間を支援することがDFの役割として期待されていること、言葉を変えればDFが社会的認知を得たと見える。

現在支援メンバー数は94名であるが、年内には130名程度のメンバーがいらないと支援活動が円滑に行われなくなる可能性がある。新にベンチャー企業支援メンバーとして参加いただきたい。

4. 環境部会 木村峰男座長
■環境部会の組織と活動
現在39名が部会員となつて5つの分科会に分かれて活動している。分科会の各リーダー、サブリーダーで連絡会を設けており、分科会間の連絡を行い、環境部会全体の運営を担当している。事務局窓口は児玉事務局長。

■11年度の活動目標
① 学習分科会では基礎講座を開催し、加えて分科会中心の勉強会により会員の水準を高める活動を行った。
② 時事分科会ではセミナーを4〜5回開催しているが、今年も原発事故関連のセミナーを2回開催した。今後はエネルギー関係、震災復興等の質の高いセミナーを予定している。
③ 教育支援分科会は、「ものづくり大学院講座(32講座)」を引き受けている。講義内容充実のため、分科会中

同好会 ガイド

先日の総会で各同好会から、活動内容をプレゼンしていただきましたが、時間の関係で発表できなかった会がありましたので、今号で紙上プレゼンをしていただきました。

落語同好会

愛子亭朝大こと家富と申します。まず会の目的。一つは、日本を代表する大衆文化に接し、日本人としての誇りを自覚する。二つ目は、健康の元である笑いを味わい、健康のありがたさを実感する。設立は2009年9月14日、会員数は44名です。

次は活動内容。まず、8箇所程度あるホール落語からこれといった物を選んで、2カ月に1回を原則に鑑賞会を行っています。

二つ目は、会員による落語口演。これは今のところ私だけですが、女流落語家の桂石団治をタシにして、年に1、2回程度やっています。

その他、落語散歩と称して、都内の落語の名所を訪ね歩いたり、寄席や、独演会では聞けない落語をDVDで鑑賞したりしています。



朝大 師匠の口演をする朝大 師匠

時には馬鹿話で笑ってみるのも自分の人生にマイナスにならないと思える人はすべて会員候補ですので、気楽にご参加していただきたいと思えます。(世話人・家富恒志)

将棋同好会

わが「将棋同好会」は昨年5月に発足しました。現在の会員数は8名、月に勉強会を開き講義のブラッシュアップをはかる活動を行っています。

④ 自然環境保全分科会は、上越、富士山にかけて緑のボランティアという事で間伐、植樹などを行っているが、それに加えて平塚の里山再生活動への参加も企画している。

⑤ 経営研究分科会では、国内外の企業環境への取り組みを勉強し、蓄積された知識を環境部会の方で活用して全体の水準を高めることを考えている。



実力棋士の面々 一回の定例会と懇親会、並びにプロのタイトル戦も行われた旅館での合宿で今日まで15回開催されました。攻防も個別対抗戦ばかりではなく、棋風や読み筋等が異なるチームを組んだりレクリ対抗戦など趣向を変えた形で、楽しく行われたりもします。

今後以下に掲げた志をモットーに積極的に活動していく所存です。①「和」を旨とし ②「競技」としてではなく「遊技」として ③会員相互の交流・コミュニケーションを深める ④会員の力はベテラン、初心者と干渉万別です。

関心のある方は是非とも入会を、初心者は大歓迎です。(世話役・和角 清)

歌舞伎同好会
当会は、肩肘張らない気楽な歌舞伎愛好の集まりを目的として、2009年11月に発足しました。会員数は現在73名と急成長が続いています。

行事は、2〜3カ月に1回、歌舞伎や文楽などの鑑賞を行っています。国立劇場のご好意で、上演前に演目のレクチャー会を持つたり、年一回、国立劇場の「歌舞伎教室公演」を例会に組み入れて、会員の皆様の歌舞伎理解の一助となるような企画も致しております。理解を深めての鑑賞は一味も二味も違います。



「歌舞伎教室公演」の様子も違います。鑑賞の後には楽しい懇親会へと続きます。また、当会の特徴は奥様も家族会員として認めることで、いっしょに鑑賞と懇親会に参加することが出来ます。初心者もベテランも大歓迎、歌舞伎と懇親会を新しい仲間と楽しんでみませんか。(世話役・保坂 洋)

俳句同好会

DFに俳句同好会「泥風句会」あり。俳句に少しでも興味のある方のご参加をお待ちしています。

効用の①漢検一級も夢では：薔薇自爽、蝨蝨、蛞蝓、こんな漢字が読み書きできるような。宇杜、子規、不如帰、蜀魂はいずれも、ほととぎす、と読むが、そこには哀しい中国の歴史が。②誰も芭蕉を超えられない：今の言葉で今のことを詠めばいい。「除夜の妻白鳥のごと湯浴みをり」の感動、「文化の日につき新聞休みです」のアイロニー。「朝寒や犬のいばりもそそくさ」と「終戦日母は戦を始めた」は始めて2年の会員の句。③健康増進：蕎麦屋の二階で酒を飲みながら。世の鬱憤も腹に溜めず、句にして皆大笑いすれば飛ぶ。レスも吹っ飛ば。

和気あいの句会
毎月第二水曜 午後6時よりJ R飯田橋徒歩5分蕎麦処「小川家」で開催。(世話人・小瀧 徹)



和気あいの句会
毎月第二水曜 午後6時よりJ R飯田橋徒歩5分蕎麦処「小川家」で開催。(世話人・小瀧 徹)

新入会員紹介

入会者についての詳細はホームページを参照してください。

- 寺井 謙二 イヌイ倉庫
- 神本 憲 日本無線
- 多々 清爾 デュボン
- 三浦 良二 三井銀行
- 林原 行雄 日本勧業銀行
- 伊藤 和博 日本債券信用銀行
- 吉田 英人 日本債券信用銀行
- 徳田 駿一 三菱信託銀行
- 大西 光 アサヒビール
- 三神 明 三菱商事
- 高山 重憲 古河電気工業
- 追川 篤 富士銀行
- 高寛 三井物産
- 藤田 卓丸 丸紅
- 蒲生 邦道 協和銀行
- 兵頭 賢二 八幡製鉄
- 寺崎 直通 全日本空輸
- 福岡 輝城 丸紅
- 萩野 純司 三越
- 池上 眞平 富士写真フイルム
- 高橋 真治 リクルート
- 大野 徹雄 国連広報局
- 杉本 和彦 日本銀行
- 桑名 正一 大成建設
- 倉地 育夫 プリヂェストーン
- 宮下 隆 三菱商事
- 藤田 卓丸 丸紅